

第1回コンパクトなまちづくり大賞 個別事業部門 国土交通大臣賞

地区名：都城市中央地区 受賞者：都城市（宮崎県）

受賞理由：都城市では大型店の跡地等を活用した図書館等の複合的機能やまちなか広場整備を都市再生整備計画事業で行うことで、交流人口が大幅に増大し、まちの賑わいを取り戻すきっかけとなりつつあり、公共施設整備主体ではあるが、個別の施設の整備内容や指定管理者による施設運営に工夫がみられる。空き店舗の減少等周辺地域へ効果の波及が徐々に始まっており、今後、低未利用地等を活用した住環境の整備等により、定住化も進んでいくものと期待できる点が高く評価されました。

1. 地区の概要と課題

宮崎県南・西部の経済圏（鹿児島県の一部を含む）の中心として戦前から発展してきた当市の中心市街地は、圏域内外から来街者を誘引する中心核の役割を果たしてきました。しかし、消費者ニーズの多様化やモータリゼーションの進展等が加速し、郊外部への大型商業施設の出店、複数のロードサイド型店舗の展開等が相次いだ結果、中心市街地で営業していた大型商業施設3店舗が段階的にすべて閉店するという状況に陥りました。

そこで、平成23年に閉店した最後の大型商業施設等の土地・建物を活用し、官民が連携して公共、民間それぞれの施設や機能を集約整備することで来街者数の回復を図るとともに、既に集積している医療、金融、公共等の都市機能とのシナジー効果で、まちなかの賑わいを再生することを目的として、平成25年度に策定した都市再生整備計画「都城市中央地区」に基づき、「都城市中心市街地中核施設」の整備を進めてきました。



2. 取組概要

今回の事業は、中心市街地で最後まで営業していた地元資本の老舗百貨店が平成23年に閉店したことを受け、その跡地等の利活用を図ることを目的に、平成25年度に都市再生整備計画「都城市中央地区（地方都市リノベーション事業）」に基づき、事業着手しました。

平成30年4月に開業した公共施設は、既存ストックである旧ショッピングモールをリノベーションした図書館と未来創造ステーション、百貨店附帯立体駐車場を改修した中核施設附帯駐車場、百貨店本館跡地に新築した子育て世代活動支援センター、保健センター、まちなか交流センター、バス待合所、屋根付きのまちなか広場の8施設で構成されています。

これらの施設は、市民との合意形成、ニーズの充足を図るため、当市や商工会議所が行ったアンケート調査、市民ワークショップ等で出された様々な意見を基に選定・計画し、整備を進めてきました。



3. 発現した成果

図書館や子育て世代活動支援センター、まちなか広場などの文化教育・交流・福祉施設が複合的に整備されたことによって吸引力が高まり、これまで少なかった若者層や子育て世代をはじめとする市民の来街機会が大幅に増加したことに加え、宮崎県南・西部の経済圏（鹿児島県の一部を含む）全体からの来街者も増加したことにより、中核施設を中心に新たな人の動きが生まれています。

特に図書館は、施設整備と並行して指定管理者を選定し、整備プロセスにも参画させる手法により、開館後の管理運営の円滑化を図るとともに、国内初となる図書館機能の整備や空間的な高質化・多機能化等を実現することで大幅な集客力向上を図った結果、開館から1年間で来館者数110万人を突破しました。

また、開館から1年間で中核施設全体の来館者数が200万人を突破した効果などにより、平成30年度は中心市街地に23件（※前年度実績：9件）が新規出店するなど、施設周辺への波及効果も発現しつつあります。



4. 今後の展開

図書館や地域交流センター等の都市機能の整備と、周辺との回遊性を高める歩行者用サインや案内標識板の設置により、施設間の歩行者が増加しました。今後もさらなる周辺商店街等へのにじみ出し効果を増大させるため、魅力的な店舗や働く場となる事業所等の誘導を支援する制度の充実や、住環境の整備促進等を図っていくことにより、中核施設を拠点とした、歩いて楽しいまちなかの形成を進めていきます。

